

Die Eiche

ディ アイヘ
<http://www.jdg-chiba.com>



Japanisch-Deutsche Gesellschaft
der Präfektur Chiba
〒274-0822 船橋市飯山満町 2-518-1
清和会第2ワールドナッシングホーム内
電話 047-461-9111 Fax 047-461-7010

年頭のご挨拶

-千葉県日独協会会長 金谷誠一郎-

新年おめでとうございます。会員の皆様には、穏やかな元日を過ごされたことと思います。昨年を振り返って見ますと、運営委員として主な行事を開催するにあたり、会場となる公民館の予約業務を一手に引き受けて頂いた二見氏が他界されて協会活動にとっては痛手となりました。謹んでご冥福をお祈り致します。一方、11月の文化の日には、常任理事の木戸 裕先生が瑞宝中綬章という立派な勲章を受章されましたことは、当協会にとってこの上ない朗報でした。木戸先生には改めましてお祝辞を申し上げ、皆様と共に祝福したいと思います。



ところで、昨年は、米中の貿易戦争がエスカレートして、一時はどうかと心配されましたが、年末にかけて第一段階の合意に達し、やれやれといった所でした。ところが新年早々の1月3日、イラン革命防衛隊のカセニ・スレイマニ司令官を米軍がドローンで殺害。これに対して、8日にはイランがイラク領内の米軍基地を攻撃するなど緊張が高まりましたが、同日に発生したウクライナ旅客機撃墜について、自国の革命防衛隊が誤って撃墜してしまったことをイラン側が認めて謝罪したことにより、イラン国内では自国の政府に対するデモが発生するなどの事態となって、米国とイランの対立は、一時的に休戦状態となっています。今年は11月の米国大統領選挙も控えており、国際情勢は引き続き緊張状態が続くそうです。そのような中で当協会では、一昨年夏に発足した青壮年部の皆さんには、勝見部長を中心に精力的に活動していただきました。特に、勝見部長には、以前健筆を振るって頂いた田中編集長の後を引き継ぎ、充実した内容の会報紙発行に加え、Facebookへの連日の情報発信で、今後の会員増に貢献するものと期待しております。又、当協会の定例行事や新規の行事に関しても内容については、運営委員会で決定していますが、実施段階では青壮年部の皆さんにお世話になることが多く、一昨年メイン行事の「ドイツ兵慰霊祭」や新たにスタートした「ドイツパンと料理を楽しむ会」、「トルペインティング」などは、同部の皆さんに尽力していただきました。今年は出来れば更に新規の催し物を・・・と考えております。ところで、先日、大使館より「2021年は日独交流160年になりますが、何かイベントを考えていますか？」との問い合わせがありました。偶々、2021年が当協会創立25周年に当たり、杉田専務理事からも「何か考えましょう」との話が出ておりましたので、「今後何らかのイベントを検討する予定です。」と回答致しました。具体的に考えられる案としては、①記念講演会②習志野俘虜収容所関係イベント、例えば (A) 各地収容所関係団体で、ドイツ側との交流状況報告会など。又は、(B) 習志野俘虜収容所で過

ごしたドイツ兵の子孫数人に来日していただき、交流する、などが考えられますが、当協会の財政状況も勘案して充分検討する必要があると思われます。いずれに致しましても、今後の役員会で十分検討の上、決定する予定です。

来年度の主な行事に関しましては、ほゞ以上のような状況ですが、ある会員の方から、「会員の中には色々な業界で活躍された方やドイツを初めとする海外駐在や海外出張で珍しい経験をされた先輩方も多く居られるようですから、その人達から貴重な経験談を語っていただく機会を設けてみてはいかがですか？」とのアドバイスをいただきました。当協会発足後、しばらくは何人かの会員の方々をお願いして講演会を開催しておりましたし、実は東京日独協会では、私が担当して、8月と12月を除く毎月の役員会終了後に、会員または会員に推薦していただいたドイツ及びドイツ以外の分野で活躍された方に1時間程の講演をお願いし、その後に1時間の立食パーティーを開催して10余年になりますが、毎回新しい話を聞いて刺激を受けています。そこで、当協会でもウイークデーか週末の3：00～5：00PMに公民館かどこか適当な場所を探してこのようなイベントの開催を実施してみたいと考えております。

又、私を含めて年齢と共に体力が衰えるのは仕方ありませんが、少しでも体力維持を目指して、定期的に遠足をするというのは如何でしょうか？ 県内には観光地も多く、例えば鋸山はドイツ人の間でも人気となっているとのことですので、観光バスで出かけたいところですが、最近では外人観光客が急増して、観光バス需要が高まり、バス料金も以前の倍以上に高騰していますので、電車で県内の海岸やその近辺の施設見学でも新しい発見があるのでは？と考えます。会員の皆様にも「このような催し物を協会として是非実施して欲しい。」といったことがございましたら遠慮せずに事務局までお知らせ下さい。事情の許す限り、ご要望にお応えするよう努力致します。いずれに致しましても会員の皆様には、本年も引き続き当協会へのご指導、ご鞭撻、ご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます

杉田専務理事・事務局長一年頭の抱負

2012年9月に入会し、2014年4月から微力ながら事務局長を務めて参りました。

この8年間で、会員（現在個人127名）は、48名が退会、41名の新入会員を迎え、新旧交代が進んでいます。協会活動の基礎は、「ドイツ軍人慰霊祭」にあり、その上にドイツ文化・芸術との交流、ドイツ人との交流、会員交流活動、等を展開してきています。この基本は、これからも維持してゆくべきものと思っています。交流や運営の方法は、時代の推移により、徐々に変化してゆくのが自然だと思います。その主要なポイントとして、具体的には、(1) 日々の活動の企画・運営の母体となっている「運営委員」を多くの会員に担っていただく。(2) 新規会員、特に若手会員を募り、活動を活性化してゆく。(3) 協会活動の内、紙での情報伝達からIT、SNSの活用へシフトする等、財政面での効率化を推進する。このような方向で協会活動が進められてゆけばよいと考えています。



運営委員の年頭の抱負

-2020活動についての各運営委員のスタンス-

今年の千葉県日独協会の運営について各委員がどのような視点、姿勢で活動に臨むか、今回、まとめました。

●今回、諸般の事情にて掲載できなかった運営委員抱負については、別の機会に収録、掲載させていただきます。

■吉川常任理事

運営委員の一員としての活動（広報・HP記事担当、行事担当、記念菩提樹委員会担当）について、次のとおり考えています。

1. 運営委員会で議論する事項について、時には会員の希望をヒアリングすることを提案。

2. 行事担当として、例年どおり会長が示す年度方針に基づき、まず年間の活動計画と全日程を決め、これらの計画を理事及び会員にお知らせ。また、各イベントに展示するパネルの写真は、イベントの趣旨に合わせその都度新しいものに更新。

3. 「記念菩提樹委員会」担当として、この名称を「記念菩提樹応援隊」と改称し、会員でない方にもボランティアで参加できるように企画。



■木戸常任理事

今年は、「ドイツ統一30周年」を迎えます。運営委員および編集委員のひとりとして、会長、事務局長、編集長を支えながら、この記念すべき年に千葉県日独協会としてどんな社会的貢献ができるのか、少しでも日独文化交流のお役に立てるよう、一同全員のチームワークをモットーに、これから1年間取り組んでまいりたいと思っています。



■志賀理事

新しい年号の令和2年を迎え、微力ながら年間事業の実現、渉外等の役割を果たしたいと思っています。具体的には、勝見編集長の下で編集委員会が発行する会報（Die Eiche）の作成協力、市川ドイツデイ実行、理事会及び総会における事業報告、計画書の作成事務と発表、駐在経験を生かした人脈等によるドイツ情報入手、等です。会員の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。



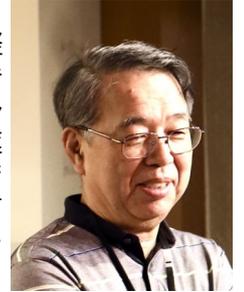
■土屋理事

当協会は設立由来となった習志野野虜収容所まつわる行事が大きな特色といえます。この歴史的にも友好的にも貴重な要素に加え、気軽に楽しめる多様なテーマを提案することによって、幅広い方に興味を持ってもらいたいと考えております。その一つとして、今年もドイツの食に関する参加型イベントを企画したいと思っております。



■安藤理事

運営委員会では、ドイツ滞在通算18年の経験を極力活用し、色々出来る助言をしていきたいと考えております。また、オリンピック・パラリンピックの年という観点では、一部開催する千葉県も関係者は、大変なようです。ドイツ関連での依頼が出てきた場合は、出来る限り協力していければと思います。また、習志野ドイツフェアは、昨年同様、務めるつもりです。



■本間理事

私は、当協会の活動目的は、ドイツ軍人追悼慰霊祭を軸とし、ドイツ文化・社会を楽しむ学び、体験することと考えており、今年は以下の企画を検討できればと思っております：

1. 季節の行事に関連したドイツ家庭料理教室
2. 他の日独協会との合同主催による在日ドイツ人との交流会の検討
3. 今後の協会活動により反映されるよう、イベントに参加された皆様のご意見やご感想についてのアンケートを実施



■本橋理事

青壮年部としてトールペインティング教室などのイベントを通して交流の場を作っていきたいと思っています。また代々受け継いできた協会の大切な行事である慰霊祭や、2011年に植樹された日独交流150周年記念菩提樹のフォローアップのお手伝いをします。今年もどうぞよろしくお願いいたします。



■田中運営委員

青壮年部および運営委員として千葉県日独協会のイベント等で皆様がドイツ人と交流できる機会を増やしていければと考えております。昨年は、ドイツワイン試飲会に日本在住のドイツ人の友人に参加してもらいました。今年は、そのような機会がさらに増えるよう積極的にドイツ人の知人にイベント参加の声掛けを行っていきます。



■勝見理事

Die Eiche 企画・編集、Facebookによるドイツ情報の日常的な情報共有を担当しています。協会においてドイツを中心とする現在のごとく、その背景にある文化、歴史を共有できる情報を発信したいと思います。また、青壮年部においては、各分野の専門家が多い会員相互の交流、ドイツ人との接点構築につながる活動を今年も推進したいと思っています。



「Eトヴァス・ノイエス」(Etwas Neues) を求めて



ドイツと私 - 藤川 義弘

私は1973年から1975年まで研究者としてマインツに滞在、つぎに1989年から1995年まで化学会社のヨーロッパ駐在員としてデュッセルドルフで暮らしました。

大学で化学を学んでいたころ、小竹無二雄という有機化学の大先生のドイツ留学記を読んでドイツ留学の夢が芽生えました。小竹先生が教えをうけたノーベル賞学者のヴィーラント教授は、実験室を巡回して研究員に「Eトヴァス・ノイエス?」(Etwas Neues?) (なにか新しいことは?) と声をかけるのが日課で、小竹先生はこの言葉を励みにして研究を続けたとのこと。日々新たなものを求めつづけるチャレンジ精神が、近代化学発祥の地ドイツの発展とノーベル賞学者輩出の原動力なのだ。



ホーナー研究室の研究者 (左端: 著者)

私の留学先のマインツはライン河とメイン河の合流点にあって、街の中心に大聖堂がそびえる古都です。活版印刷の発明者グーテンベルクの生誕地で、大学の正式名称はヨハネス・グーテンベルク大学、昨年の習志野ドイツ軍人慰霊祭で挨拶されたフォン・ヴェアテルン前駐日大使はマインツ大学経済学博士とのこと。



マインツ大聖堂

ホーナー教授はすでに60歳を超えた大先生でしたが、やはり実験室の巡回が日課です。私にかけられた先生の言葉は、まさに小竹先生の留学記で読んだとおりのEtwas Neues?。

はじめてその言葉を聞いたときは、昔のことを思い出して感激しました。

しかしながら実験にとりかかってもネガティブデータばかり。そのうち先生からEtwas Neues?と尋ねられるのが苦痛になりました。支給された原料を使い切ってしまうと、さらに追加をお願いするという始末です。



大学構内のグーテンベルク像

それでも試行錯誤を繰り返すなかで、自分なりのアイデアでなんとか課題の新規化合物を合成することができたのはラッキーでした。一年の留学延長を認めてもらうこともできました。若さと持ち前の楽天的な性格で困難を乗り越えられたのでしょう。あこがれと現実とは違うということを感じた最初の一年でした。

ホーナー先生は偶然にも小竹先生の逸話に出てくるヴィーラント教授の弟子でした。この系譜をたどると大化学者バイエル、さらに近代実験化学の父リービッチに至ります。自分もドイツ化学史の末端につらなって研究したのだという感慨があります。

マインツから帰国後は化学会社に就職、医薬品の世界でEtwas Neues (新しい薬のタネ)を探る研究でした。会社が医薬品事業を始めるということで、イチからの研究スタートだったので時間がかかりましたが、幸運にも新しい薬のタネを見つけることができました。研究に一区切りがつくと、ここで思いがけずデュッセルドルフ駐在員の辞令を受けました。14年ぶりにドイツとの縁が復活したのです。ベルリンの壁崩壊という激動の時期でした。

駐在員の仕事は会社が欧州各地で展開する事業のサポート役です。Etwas Neuesとは縁遠い、ヨーロッパ各国を飛び回るそがしい生活でしたが、これまでとは異なった分野の人々との出会いがあり、別の世界への視野がひろがりました。なかでも、日本人の多いデュッセルドルフならではの思いがけな

い出会は男声合唱団の立ち上げです。学生時代にやっていたコーラスをドイツで再開、各地の日本デーやモーゼル河畔ピースポルトのワイン祭りなどで歌ったのは楽しい思い出です。(帰国したOB団員で東京支部を立ち上げて活動を続け、2016年には本部と合同で25周年記念演奏会をデュッセルドルフで開催しました)。



男声合唱団25周年記念演奏会

1995年に5年間のデュッセルドルフ滞在を終えて帰国、もとの医薬の世界にもどりました。ドイツに行く前に見つけた医薬品のタネを、留守のあいだに古巣の皆さんが大きく育ててくれたので、今度はそれを医薬品にするための本社での仕事でした。学生時代にはじめてEtwas Neuesというドイツ語に出会ったあと、ドイツでじっさいにその言葉を聞きながら研究し、さらに日本では自分自身にそれを問いかけながら研究開発を続けて30年、2003年になって医薬の世界でやっと「Etwas Neues」を世の中に送り出すことができました。

人生でいろいろな出会いの場を与えてくれたドイツのかかわりをこれからも大事にしていきたいと思っています。

習志野市主催

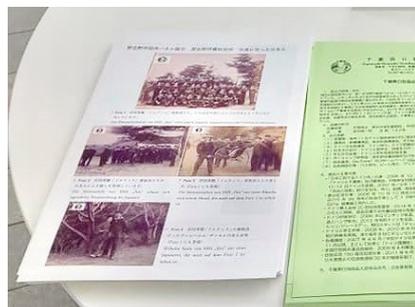
<ドイツ捕虜解放100周年記念行事>

第一次世界大戦で習志野俘虜収容所にいた捕虜が解放されてから今年で100年を迎えます。これを記念して習志野市は、「ナラシノの記憶ードイツ兵たちの記録が語るものー」をテーマにドイツ捕虜関係資料に関する展示会(1月14日から26日まで)と講演会(26日)を開催しました。

当協会もパネル展示を行い、協会の活動を紹介しました。またテーマについては、2018年に入手したE. グローセ氏提供の写真コレクションの中から10枚の写真を展示しました。E. グローセ氏の曾祖父W. ザッセ氏は習志野俘虜収容所の捕虜で、当時の写真を数多く持っていました。展示したのはその中から日本人が関係する写真10枚です。見た目から日本人であることはわかりますが、具体的な素性などは想像しかできません。また収容所以外で撮ったと思われる写真も数枚あり、その場所も不明なままです。今回の展示ではそれらの写真を載せたパンフレットを作成し、広く情報提供をよびかけました。



千葉県日独協会の展示コーナー



当時の写真の背景情報を尋ねるパンフレット (左)

一方習志野市のブースでは、昨年秋に同市の指定文化財に指定された「ドイツ捕虜関係資料」をはじめ、初公開となる展示物が、青島、東京俘虜収容所、習志野俘虜収容所と時代を追って多数並んでいました。注目を集めていたのはガラスケースにはいったボトルシップや『エーリッヒ・カウルの日記』、俘虜郵便や写真などの貴重な原物で (次ページへ続く)

した。そして捕虜たちが様々なスポーツ、演劇、音楽活動をしている写真を皆さん熱心に見入っていました。期間中來場者の方とたくさん話ができました。関心がある点はそれぞれ異なるようでしたが、同じ写真をまた違った視点から見る事ができ、大変勉強になりました。なかなか普段接する機会が少ないテーマですが、この記念行事を機に一人でも多くの方に興味をもっていただけたら、と願います。(理事・編集委員: 本橋 緑)



習志野市の指定文化財の展示コーナー

活動報告

■クリスマス会・忘年会

当協会恒例のクリスマス・忘年会は、年末の忙しい2019年12月14日(土)、京成津田沼駅近くのレストラン「キャラバン・サライ」で午後5時から開かれました。昨年は、東京・新橋にあるドイツレストラン「アルテリーベ」でしたので、今回は地元開催でした。



初めての会場でしたので、幹事としては、店の雰囲気や料理の質さらには店のサービス等心配しましたが、ご参加された皆さんは次の写真(終了後)のとおり笑顔一杯でしたので、安心した幸いです。また、お忙しいなか、初参加の方を含めて34名の会員に参加していただきましたこと、この紙面を借りまして厚くお礼を申し上げます。



前置きが長くなりましたが、今回のクリスマス・忘年会も、いつも明るい笑顔で進行される須古元副会長の名司会のもとに始まり、まず金谷会長が開会の挨拶をされた後、乾杯の音頭を北村理事がとても元気な大きな声で行い始めました。当協会の目玉は何と言っても参加者全員で歌うクリスマスソングやドイツリート等の数々です。ピアノ伴奏は、お馴染みのベテランの福康子さんの巧みな演奏でした。

飲み放題のせい、これ以降記憶が曖昧ですので報告は以上とさせていただきます。(常任理事: 吉川)



書籍/Buch

『ドイツ兵たちの習志野』

習志野俘虜収容所の捕虜解放100周年を記念して習志野市では同収容所についてのガイドブックを刊行しました。歴史的背景、収容所の概要やドイツ兵たちの活動について大変わかりやすく紹介しています。図や写真が多くあり、収容所について知識がある方はもちろん、初めて知る方にもお勧めの一冊です。



習志野市庁舎2階の社会教育課窓口で販売、郵送にも対応しています。詳しくは習志野市社会教育課(電話047-451-1151・内線462)に問い合わせ、または市HPから「市史刊行物」で検索下さい。

習志野市教育委員会 編集・発行 ¥300 (税込)

(理事・青壮年部・編集委員: 本橋 緑)

今後の予定

2月8日(土) 【新春講演会】

講師 NRW州代表、日独協会理事 Georg K. Loer氏

時間 15:30-17:00

演題 「EU、ドイツ、そして日本 ~ 現在過去未来」

場所 船橋市中央公民館第3集会室

【懇親会】

時間 17:20-19:00

場所 今日和 (船橋市本町2-2-1-1 船橋スクエア21)

会費 4,500円

4月11日(土) 【理事会】

時間 15:00-1800

場所 別途、ご案内致します。

5月9日(土) 総会、総会記念講演 (詳細、別途ご案内します)

会員情報

新人会員 神田 基成 藤沢市

法人会員 医療法人 同和会 千葉病院、社会福祉法人

清和会、(株)京葉ビル管理、(株)和幸電気工事、

メルセデス・ベンツ日本 (株) 習志野事業所

編集後記

現代社会の動きは、政治、経済、環境どの分野を見ても恐らく後年の世界史に刻まれることになるであろうと思っています。EUの牽引役であるドイツも例外ではなく、日々のドイツでの出来事やドイツを取り巻く環境、人々のマインドについて、昔は、短波放送や空輸の新聞雑誌で捉えようとしたのですが、今やいとも簡単に日常的に追うことができます。会員の皆様には、どなたでもご参加いただけますよう、Facebook上で会員専用の情報発信の場を設けております。ご関心おありの方は、勝見までご連絡くださいませ。勝見メールアドレスは、siegmond2017@outlook.com となります。



Facebook 千葉県日独協会会員専用トップページ